

## 冬の暮らしを快適に



▲近所の凍結路面に砂をまく小助川さん

西第九町内会会長の小助川克顕さんは、地域の誰かが転んでけがをしないようにと、危険な凍結路面に砂をまいています。

「使いやすさと手軽さから、ペットボトルを砂まきの容器として再利用しています。まちづくりセンターからもらった砂袋をペットボトルに移し変えて、いつでも砂をまけるようにしています。」と話す小助川さん。



### 砂まきにペットボトルを再利用

しながら、ペットボトルを使う際の砂まきなど、誰でもできるツルツル路面対策を浸透させていきたいです。」とこれから取り組むべき地域の課題についても話してくれました。



▲滑り止め材の入った砂箱

交差点の歩道には滑り止め材の入った砂箱が設置してあります。

滑りそうな路面を通る際には、みんなのことを考えて路面に砂をまきましましょう。



### 雪をめぐぐる新しい取り組み

市政への要望の第一位は毎年「除雪」に関する事で、「市のほかの事業を我慢しても、除雪はしっかりやってほしい。」といった厳しいご意見も寄せられています。

市の限られた除雪予算の中でも、みなさんの満足度を少しでも高めるためには、作業効率良く行うのはもちろんのこと、地域と連携を図りながら、従来の方式を改善していかなくてはなりません。

札幌市では、これからの除雪のあり方を検討しようとして、今年度から各区で「除雪モデル地区」を設定しました。

これは、市民と行政が一体となって、みんなでより良い除雪の方法を考える新しい取り組みです。



冬の暮らしをより快適なものにするためには、皆さんの協力が必要です。

みなでアイデアを出して話し合い、これからの除雪について考えましょう。

## みんなで考えよう！これからの除雪～「除雪モデル地区」の取り組み～

宮の森北1・北2・北3・東1・東3・第1の6単位町内会の区域が、「除雪モデル地区」に設定されました。現状の除雪体制を改善するために、次のことに取り組んでいます。

### ◆除雪実施基準の変更

除雪車の出動基準を従来の10cm降雪時から15cm降雪時へ変更します。新雪除雪の出動回数は減りますが、その代わりに道路の整正・拡幅作業を充実させます。

### ◆地域と市による合同パトロールの実施

空き地などを排雪までの一時的な雪たい積場として活用するため、地域と市の合同パトロールを行います。

### ◆公共用地を雪たい積場として利用

公園や学校などの公共用地を地域の雪たい積場として利用します。

このほかにも「除雪対応マップ」の作成など、さまざまな新しい取り組みを行い、最終的に「取り組み評価書」を作成して、より良い除雪体制へ向けての検討を行います。



▲公園などを雪たい積場として活用します